

SOLDIERS FIELD PARK CHILDREN'S CENTER 観察報告

市 来 恵 子

A report on the observations of Soldiers Field Park
Children's Center

by
Keiko Ichiki

キーワード：米国幼児教育、乳幼児教育保育施設、保育観察、ハーバード大学、少人数保育
保育環境、環境構成

1. はじめに

米国の幼児教育を研究していく中で、じっくり観察したい思いに駆られた乳幼児教育保育施設（以後施設）に出会った。そして其の施設を2週間という期間をかけて観察するという予期せぬ幸運に恵まれた。それは米国ボストン ハーバード大学経営大学院敷地内に建つ、ハーバード大学提携チャイルド ケアセンター SOLDIERS FIELD PARK CHILDREN'S CENTER (SFPCC) である。米国には有名な施設がいくつかあるが、この施設は特別であると著者は思っている。理由の一つ目は、保育料が月20万円と他の施設に比べ非常に高額であるが、それでも常に空席待ちという驚くべき人気施設であること。二つ目は、先生対子どもの割合が驚くほど少ないことである。本稿では人気の秘密を探るため、少人数保育の魅力等についての観察報告を行いたい。

2. 観察報告

2・1 目的及び施設概要

観察日時 2009年4月21日～5月4日(土・日を除く毎日) 朝7時半～夕方6時の
間約2～3時間

観察の意義と目的 SFPCCにおいて、一つ目に子どもがどのような環境の中で生活し、活動しあるいは遊び、過ごしているか、二つ目に保育者がどのようにかかわり、

援助し指導しているか、三つ目に保護者とのかかわりはどのようなものであるか、を中心に観察することにより、幼児教育の示唆とする。

観察方法 直接子どもに働きかけない観察と子どもと対応しながら観察（参与観察）の併用。

施設（SFPCC）の概要

- 1976年、現在のハーバード大学大学院（MBA）敷地内に開設。2008年現在35名（アシスタント含む）の先生に、80名の子どもが全日（70%）半日（30%）通園しており、内約85%はハーバード大学関係者の子どもである。
- 施設運営のための収入の97.8%が親からの保育料で賄われている。支出は人件費（87.2%）、運営費（8.2%）、給食費（3.5%）、保険料（1.1%）となっている。
- 先生の資格は、幼児教育の学位又は幼児教育の多くの単位を収めた上で教えた経験を持つ者であり、修士号を持つ先生も多い。
- 施設には8つのクラスがあり、それらは全て1階に位置し、雨の日も十分遊べるように又、衣・食・住の空間を分けることができるよう2部屋続きであり、それぞれ外に園庭が教室に沿って併設されている。
- 全ての子どもにはクラスの先生の中から1人「主たる先生」が付き、その子の発達レポート及び1年間の成長アルバム作成が義務づけられている。
- 学期始めに「主たる先生」と面談を行い、保育の目標を定めている。学期半ばで半期の成長記録を見ながら再度面談を行い、15ヶ月以下の子どもと障害児は、3ヶ月毎に成長記録を書いて親に見てもらっている。
- 何れの教室にもピアノは設置していない。音楽教育専門教師が各クラスにて週1回音楽指導を行なっている。
- 園全クラスのおやつ及び昼食は、園の中心部にある台所で毎朝調理されている。この園の元保育者で、3人の子育ての為辞めた調理師に著者がインタビューを行うと、「子育て中の自分にピッタリの仕事です」と答え、誇りを持って仕事をしている様であった。調理場は家庭の雰囲気を出すため家庭の台所と同じ造りにしてあり、園の中心に在るため子供たちは調理師に声を掛けたり、出来上がった料理や調理姿を眺めたり、漂ってくる美味しそうな匂いをかいだり、昼食の材料を眺めたりしている。正に子どもは家庭料理を毎日食べるのできるのである（台所写真参照）。



SOLDIERS FIELD PARK CHILDREN'S CENTER 観察報告

月額保育料—2008年6月30日～2009年6月26日(週5日・土日祭日休み) 午前のおやつ及び昼食を含む 全日(8:00～18:00)のみ午後のおやつも含む 料金の数字はドル表示

| クラス名 保育時間 | 乳児1 & 2 | 乳 幼 児 & 幼児1 | 幼児2 | 幼児3 | 幼稚園1 | 幼稚園2 |
|--------------|------------|----------------|-------|-------|-------|-------|
| 8:00-18:00 | 2,287 | 1,987 | 1,885 | 1,813 | 1,571 | 1,464 |
| 8:00-15:00 | 1,967 | 1,709 | 1,621 | 1,559 | 1,351 | 1,259 |
| 8:00-13:00 | 1,498 | 1,301 | 1,235 | 1,188 | 1,029 | 959 |

クラス構成(9月1日現在)

| クラス名 | 月齢(9月1日現在) | 定 員 | 先生と子どもの割合 | 先生の実数(アシスタント含む) |
|---------|-------------|-----|-----------|-----------------|
| 乳 児 1 | (2ヶ月～10ヶ月) | 5人 | 1:3 | 3 |
| 乳 児 2 | (2ヶ月～10ヶ月) | 5人 | 1:3 | 3 |
| 乳 幼 児 | (10ヶ月～15ヶ月) | 6人 | 1:3 | 3 |
| 幼 児 1 | (15ヶ月～22ヶ月) | 8人 | 1:4 | 3 |
| 幼 児 2 | (15ヶ月～29ヶ月) | 9人 | 1:4 | 5 |
| 幼 児 3 | (25ヶ月～34ヶ月) | 12人 | 1:4 | 5 |
| 幼 稚 園 1 | (34ヶ月～46ヶ月) | 17人 | 1:6/7 | 5 |
| 幼 稚 園 2 | (46ヶ月～5歳) | 18人 | 1:6/7 | 5 |

*他に3名のフルタイム“floating teacher”(病気や研修など、様々な理由で教える事が出来ない先生に代わって、教える教員)がいる。

勤務表 幼稚園2 先生3人(A・B・C) アシスタント2人(f:女・m:男)

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-------------|---|---|---|---|---|
| 7:30-14:30 | A | C | B | C | A |
| 8:00-15:00 | B | A | C | B | m |
| 8:45-12:30 | m | m | m | f | f |
| 11:15-18:15 | C | B | A | A | C |
| 15:00-18:00 | m | m | f | m | B |

日課表

| 乳幼児/幼児1 | 幼 児 2 | 幼稚園2 |
|--------------|-------------|---------------|
| 8:00 自由遊び | 8:00 自由遊び | 8:00 自由遊び・お仕事 |
| 9:25 片付け | 9:25 片付け | 9:15 片付け |
| 9:30 サークル | 9:30 サークル | 9:30 サークル |
| 9:40 おやつ | 9:45 おやつ | 9:45 おやつ |
| 10:00 散歩と外遊び | 10:00 音楽・踊り | 10:00 外遊び |

| | | |
|-------------|----------------|----------------|
| 11:30 サークル | 10:10 自由遊び | 11:00 サークル |
| 11:40 昼食 | 10:30 外遊びと散歩 | 11:30 昼食 |
| 12:15 外遊び | 11:50 サークル | 12:00 物語 |
| 13:00 午睡 | 12:00 昼食 | 12:20 設定保育 |
| 15:00 静かな時間 | 12:30 自由遊び | 12:50 歯みがき・トイレ |
| 15:45 おやつ | 13:00 サークル | 13:00 お話 |
| 16:10 自由遊び | 13:15 午睡 | 13:15 午睡 |
| 16:45 片付け | 15:00 静かな時間 | 14:30 本とお絵描き |
| 16:50 サークル | 15:30 自由遊び | 15:00 自由遊び |
| 17:00 外遊び | 16:15 片付け・サークル | 16:15 おやつ |
| 18:00 閉園 | 16:30 おやつ | 16:45 サークル |
| | 16:45 外遊び準備 | 17:00 外遊び |
| | 17:00 外遊び | 18:00 閉園 |
| | 18:00 閉園 | |

2・2 観察

以下、筆者が行った観察をクラス毎に、時系列順に報告する。

2・2・1 乳児1&2クラス

<施設>

- ・乳児1一部屋の片面は広い鏡張りで、その前には子どもが伝え歩きできるよう、長い手摺りが付いている。遊具をいくつかぶら下げている（写真1参照）。
- ・乳児1一窓に沿って柵の付いた大きな白いベビーベッドがある。その下は3個のアーチ型の出入り口が付いた、格好の子どもの隠れ家になっている。子どもの椅子や滑り台は木製で、椅子は全て子どもが自分で座ることができるように又安全なように低く、シートベルトが付いている（写真2参照）。
- ・乳児2一七色のマットレスの上に木製の滑り台があり、広い窓に沿った柵の上や中には、紐結びやボタン掛け、板はめ等モンテッソーリ教具や、積み木や自動車等、様々な遊具が手が届く場所に置いてある（写真3、4参照）。
- ・乳児2一部屋の壁際に布団と数個の大型クッションが置いてある。その上に5人の子どもを並んで座らせ、手遊びや絵本読み等を行う。部屋の中央付近に位置する台所、シンク横カウンターにマットレスを敷き、其の上でおむつ替えや散歩前の日焼け止めクリームを塗る（写真5参照）。
- ・乳児2一部屋の奥の方に隠れ家のような階段部屋が作られている。絨毯が敷き詰められ、階段の下には危険防止の為に布団が敷いてある。自由に階段の登り降りを楽しみ、登った部屋で静かに絵本を見たり、好きな縫いぐるみで遊ぶ等数人の子どもと一緒に遊ぶ広さがある（写真6参照）。

- ・乳児1乳児2—それぞれの保育室には、先生が保育中にデジカメで撮った子どもの様子が、コメントと共に壁の低い位置に張ってある。親子で楽しめるように又保育の様子を保護者に伝える為、1人5枚ずつ程張ってある。別の場所にはクラス全員の名前 生年月日 先生手作りの愛らしい作品として張ってある（写真7参照）。

<観察>

- ・朝8時15分—1才位の我が子を抱いた父親が、軽音楽の流れる乳児2の部屋へ入って来る。靴を脱ぎ素足になって絨毯に上り、待っていた先生と挨拶をし、座って我が子と遊び始める。いずれの親も、10分あるいは20分と我が子が遊びに取り組む迄静かに見守っている。その後先生とゆっくり話し、我が子にキスしながら「バイ！楽しい一日をね」などと言って帰っている。9時半までは自由遊びの時間である。
- ・水の入ったカラフルで透明なプラスチック製ストロー付コップを、棚の上から子どもが自分で取る。立って飲み始めた子に危険を察知した先生は、サッと腰を低く下ろし「ジョン、座って飲みましょうね。」ジョンが座ると「有難うジョン」。飲み終わってコップを先生に差し出したジョンに「飲み終わったのね。教えてくれて有難うジョン」とずっと腰を低く下ろしたまま、にこやかに声かけしている。
- ・友達の歩行器を取り上げようとしていた1歳2ヶ月位の子に「アリッサが今使っているでしょう。ピーター、あなたは別の歩行器を使いましょうね」と先生は優しく腰を下ろして語り掛けている。
- ・9時半—「サークルの時間」になったので、先生は5人の子どもを布団の上に並んで座らせ、あぐらを組んで座っている先生の歌に合わせて、子どもは指遊び手遊びをする。皆一生懸命に真似ている。手を叩く膝を叩くなどリズムカルなものが続き、その後絵本を読みながら先生は「恐竜が上にあがった！また降りてきた」と絵本を上を持ち上げたり下げたり、表情豊かに読んでいる。
- ・9時40分—おやつの時間になる。先生は戸棚の中にもって遊んでいるジョンに「ジョン一緒に来てスナック食べよう？」。隣の部屋では子どもが、低いテーブルの上に直接置いてあるメロンの薄切りとクラッカーを自分で取り、手掴みでこぼしながら食べている。テーブルに付いたジョンは先生にお絞りで手を拭いてもらい、他の子と同様に乳首の付いたプラスチック製カラーコップで牛乳を飲んでいる。
- ・「もっとクラッカー」お代わりを求める子に「もっと下さいとプリーズを付けて言いましょうね。」「もっとメロンはいりませんか？」先生は美しい言葉遣いを大切にしているようである。
- ・誰が何をどれ位食べたか先生は正確に数を数えてメモしている。目的は3つあり、家庭で同じものを夕食で食べないように、子どもの食欲加減を親に知らせる為、それぞれの家庭でその子が日常食している食べ物のみを与えていることを理解してもらう為に記録している。

- 飲み物は「冷凍母乳」の子もいれば「牛乳または水」と家庭の意向で決まる。園で支給される牛乳は全て organic であり、水はミネラルウォーターである。
- 10時半—散歩の時間になり、先生が子どもを1人ずつおむつ交換台に上げて、日焼け止めクリームを顔や手などに塗り始める。6ヶ月過ぎれば親の希望により塗るのだが、多くの親が塗ることを希望する。どの子がどのメーカーの日焼け止めクリームをどのくらいの量塗るかが書かれた紙が張ってある。子どもに帽子をかぶせコートを着せる。4人乗り又は6人乗りワゴンに乗せ、大木がそびえる緑豊かなキャンパス内をゆっくり毎日2回30分ほど散歩する（写真8参照）。
- 11時から午後1時の間、乳児1、乳児2共に5人の乳児に3人の先生が付く。その前後は2人である。
- 外遊びの時間には全員に日焼け止めクリームを塗る。乳児1は歩ける子は5人の内2人だが、全員靴を履き帽子をかぶって教室に沿って作られた園庭で30分遊ぶ。毎日2～3回外遊びがある。砂が十分入った砂場が人気で、座り込んで砂を手でかき回したりすくったり、スコップで遊んだりしている（写真9参照）。
- 午睡など睡眠は親の希望に沿って、うつ伏せ寝・仰向け寝と子どもごとに行う。以前はうつ伏せ寝がほとんどであったが、最近は産院で乳幼児突然死症候群の危険性を伝えているので半々である。



1 乳児1 保育室



2 乳児1 保育室



3 乳児2 保育室



4 遊具



5 乳児2 保育室



6 乳児2 階段部屋



7 乳児2 プロフィール



8 ワゴン



9 乳児園庭

2・2・2 乳幼児／幼児1クラス

<施設>

- ・部屋の一角に2m×1m程の木箱が置いてあり、中に砂が大量に入っている。長靴を履き赤い帽子をかぶった男の子が、喜んで話ながら砂の中の色々な遊具で遊ぶ。
- ・隅の方に2m四方程の個室がある。布団や大型クッションが置いてあり、子どもはこの静かな隠れ家で絵本を見、好きな遊具を持ってきて遊ぶ。
- ・教室への出入り口には・先生の顔写真・勤務表・日課表・今日の活動内容・今週の保育の課題・新しく入った絵本やおもちゃの紹介・おやつ、昼食メニュー・親へのお便り袋などが掛けてある。少し離れて・出欠表・フードチャート（子どもの食べた物・量を記録したもの）・ナップチャート（子どもの睡眠を記録したもの）などが掛けてあり、親も自由に見ることができる。又1人ずつ大きな衣類入れバスケットが置いてあり、その下に名前付いた道具箱やコート掛けがあり、親が子どもを乗せてきたバギーを置く場所もある（写真10.11参照）。

<観察>

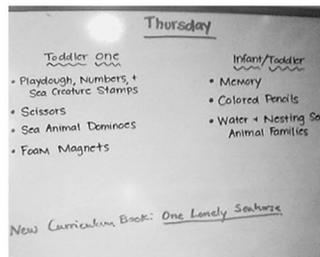
- ・15時一衝立で一人ずつ囲まれたベッドから、1人又1人と昼寝から起きだし遊び始める。乳幼児/幼児1クラスは共同保育であり、子どもは広い部屋で一緒に午睡をする。先生は起きた子をおむつ交換台に抱き上げ、おむつ交換を行う。或いはトイレに誘導しおまる（室内用便器）に座るよう促す。どの幼児クラスにもかならずトイレ・トレーニングの為、子ども用便器の他におまるが用意されている（写真12参照）。まもなく全員が起き、お迎えのない全日の子どもはおやつを食べる為、別室へ1列に並んで移動する。前後に先生が付き、リズムを取りながらゆっくり歩く。
- ・15時45分一おやつの時間になり、丸いテーブルに4人の子どもと先生が座り、もうひとつのテーブルに3人の子どもと先生が座る。「手をきれいにしましょう」と先生が言いながらタオルで1人ずつ丁寧に手を拭いている。皮つきリンゴのスライスとクラッカーを、それぞれの子どものテーブルの上に直接置き、子どもは手でそれらを取って食べている。何度もお代わりをする子が多いが、先生はその都度、迎えに来た親に伝える為、どの子がどれだけ食

べたかをしっかりと記録している。

- リンゴは皮付きのまま食べさせる為、農薬を落とす特別な洗剤を使用している。
- 16時10分—おやつの後、自由遊びである。子どもは自由に色々なコーナーで遊び始める。遊んでいる間に先生はおむつ交換を行ったり、遊びを見守ったり一緒になって遊んだり、迎えに来た親と話したりしている。
- 教室の隅に役割遊びコーナーがあり、階段の付いた2階建ての家にはマットレスに枕、布団に可愛い台所などが揃えてある。またモンテッソーリ教具も子どもの目の高さに配置している。このような色々なコーナーは部屋の三方に設置され、真ん中が広い空間であり、ここでは子どもが自動車や消防車に股がり、走り回ったり膝をついたまま押ししたりしている。
- 16時50分—サークルの時間になる。7人全員が輪になって座り、先生が絵本を2冊読む。「ハエ、見たことあるかな?」「クモがニョロニョロ」など表情豊かに声かけしながらジェスチャーを混ぜて読んでいる。子どもは楽しそうだ。先生が1人の女の子に優しく目配せする。その子は振り向き、両手を広げ満面の笑みをたたえた母親を見るやいなや一直線に母親の元へ走って行く。もう1人の先生が後を追っかけ、その子を抱いたままの母親と話し始める。しばらく話した後、我が子の名前の付いた連絡ケースとロッカーをチェックし、もう一度先生と話しをしてから帰って行く。



10 顔写真



11 活動内容



12 トイレ

2・2・3 幼児2クラス

<施設>

- トイレには下半分に透明ガラスのドアがあり、中の様子がよく見える。トイレの中は広くタイル張り、子ども用便器とおまる、踏み台や椅子が置かれ、手摺りを持って安全に出来るよう、2面に手摺りが取り付けられている。トイレ・トレーニング中の子には少なくとも1日3回はおまるに座るよう指導する。パンツを自分でなんとか脱いで踏み台に乗り、便器に座った子の前に先生が正座して座っている。子どもの目線でゆっくりおしゃべりをしている。先生の援助で紙を使って拭き、水を流して先生にパンツをはかしてもらおう。トイレから

出ると、子どもはすぐ横にある手洗い場で液体石鹸を手につけて手を洗い、傍に掛けてある自分のタオルで手を拭いている。子どもがトイレから出るとすぐに先生は立ち上がり、壁に掛けてあるトイレチェックリストに、トイレの状況を細かに書き込んでいる。最後に便器や手摺りをペーパータオルで拭き、ドアの外にある手洗い場で手を洗って先生は皆の所に合流する（写真 13. 14 参照）。

<観察>

- ・ 8 時—子どもが親に抱かれ、あるいは手をつないでまたはバギーで、1 人また 1 人と登園する。9 時 25 分迄自由遊びであり、子どもは思い思いにテーブルの上に用意された色々な遊具で遊んだり、食器や鍋が用意された台所で役割遊びをしたり、隣の部屋に置いてあるトランポリンで飛んだりはねたりしている。先生の膝に座って絵本を読んでもらっている子もいる（写真 15. 16 参照）。
- ・ 車の取り合いが起こる。様子を見ていた先生が車を取ったボールに「ボール、車をゲイブリオに戻しなさいね。」ボールは渡さずにポンと投げる。座ってしっかりとボールの目を見ながら先生は「あー、それは間違っているボール。拾ってゲイブリオに戻してね。」ボールは拾って戻す。
- ・ 先生は子どもの良い行いは見逃さず「ちゃんとオモチャを渡したあなたは本当に優しい子ね」など、つとめて褒めている。
- ・ 「天道虫」と子どもが絵を先生に見せに来る。先生はその絵とその子の目を見ながら「天道虫！天道虫！飛んで行けー」と歌い始める。その子も歌い始め跳びはねる。
- ・ 9 時半—朝のサークルの為 8 人全員が輪になって座る。「朝の歌を歌いましょう。今日は誰が最初に踊りたい？」女の子がサッと真ん中に出て来る。先生が膝を叩きながら歌う 1 分程の短い歌に合わせて、飛んだりはねたり踊り始める。他の子も手を叩いている。一曲歌い終わると踊った子に「次は誰を選ぶ？」選ばれた子が嬉しそうに立って踊り始める（写真 17 参照）。
- ・ エリック・カール作『はらぺこあおむし』の絵本を先生が読む。「どっちの食べ物か体を大きくするかな？」「いつも食べていいかな？」などと声掛けしながら読んでいく。読み終わると「皆で青虫になろう。そして綺麗なチョウチョに変わります。」「青虫さんいらっしやい」1 人の子が青虫になったつもりで真ん中に立つ。先生は 7 色の色鮮やかな特大の布をパッとかぶせ、パッとはずして「ほら美しいチョウチョになりました！」次々と全員が真ん中に立ちチョウチョに変身する（写真 18 参照）。
- ・ 「もしあなたがチョウチョの黄色のシャツを着ていたなら、羽をパタパタさせて飛びながら手洗いに行きましょう。」「青いチョウチョ色のシャツの人は赤ちゃんチョウチョになって行きましょう」手洗い場には別の先生が、石鹸を付けて手を洗う指導をしている。

- 9時45分—おやつの時間になる。教室に置いてある大型冷蔵庫から、薄切り皮付き梨とミネラルウォーターを取り出し、クラッカーと共に子どもの前に並べる。子どもは手掴みで食べている。3人2人3人と3個のテーブルに分かれて座り、各テーブルに先生が1人ずつ座っている。4人目の先生がお代わりを出したりお絞りを子供たちに渡したりしている（写真19参照）。
- 10時半—散歩の時間になり、先生は子どもに日焼け止めクリームを塗り、子どもが帽子とコートを着た事を確認し、子どもの手を両手につないでキャンパスを歩く（写真20参照）。途中で1本のロープを子どもに握らせ、前後に先生が付いて歩く。先生のリードで歌を歌いながら、ゆっくりと30分キャンパス内を散歩する（写真21参照）。



13 トイレ



14 トイレ



15 自由遊び



16 自由遊び



17 サークル



18 サークル



19 おやつ



20 散歩



21 散歩

2・2・4 幼児3クラス

<観察>

- 8時—受け入れ準備を終えた3人の先生が、子どもの到着を待っている。朝8時～9時半迄

の間の好きな時間に子どもは登園する。まもなく父親に手を引かれて女の子が来る。先生との挨拶の後、父親は遊具が置かれたテーブルに我が子と並んで座り遊び始める。男の子が母親と来てやはりテーブルに並んで座り、一緒に遊び始める。別の子が父親と来てやはり一緒に遊んでいる。どの親も10分～20分程わが子と遊び、子どもが興味のある取り組みを始めたところで立ち上がり、先生と話し始める。10分～15分程話をした後「お父さんは帰るよ。楽しい一日をね。愛しているよ」などと我が子にキスをしながら語りかけ帰って行く。「入園の手引き」に書かれている「・子どもを置いてすぐに帰らないこと」「・先生となるべく多く話をすること」をどの親も守っている。

- ・9時半迄の自由遊びの時間、子どもはそれぞれ好きな遊びに没頭する。楽しい事に出会えるように、好きなことに没頭できるように、仲間とじっくり過ごせるようにと環境構成を大切にしている保育が行われている。(以下7項目は自由遊びの様子)
- ・1人の男の子がテーブルに置かれた3個の長方形の水槽の一つに手を突っ込んでいる。水が半分程入っており、その中にゴム製の色々な種類の魚とガーゼの広い布が入れてある。子どもは水の中でガーゼを絞ったり広げたり、魚をつまんだり釣ったり、水や魚の感触を楽しんだり凝視したりしている。
- ・2人の子どもが砂の入った2m×1m四方の木箱の中の砂で遊んでいる。砂場の砂にプラスチック製の色鮮やかな砂が混じっており、ジョウロとスコップを使いながら楽しそうに遊んでいる。
- ・1人の女の子が教室の片隅にあるベッドに寝転がって絵本を見ている。ベッドの真横に絵本棚がある。絵本は絵本コーナーにも数多く置いてある。三方を絵本棚で囲まれた絨毯敷きの絵本コーナーでは、1人の男の子が足を投げ出して無心に絵本を見ている。
- ・プリテンディングセンター(振り遊びコーナー)で、女の子と男の子がゴム製お父さん人形の取り合いをしている。様子を見ていた先生が女の子に『今、自分が使っているのよ』とボブに言ったほうがいいと思うよ。ボブはちゃんとキャシーに「貸してくれない?」と頼むといいと思うよ。』するとボブが「貸してくれない?後どれくらいで貸してくれる?」先生はすかさず「ボブ良い質問だね」と褒めている。
- ・喧嘩を始める。先生は優しく2人の子どもを自分の膝に抱いて「今の言い方は違うよね。何と言うのかな?」『そうよね。「今自分が使っているのよ」だったね。だから「待ってね」と言ってみようね』
- ・人形を投げた男の子がいる。見守りを続けていた先生はすぐに男の子の前に座り込んで「人形を投げたでしょう。それは良いことかな?抱き上げて大切にしていあげようね。」と優しい眼差しで語りかけ、その子が人形を抱き上げる迄見ている。
- ・梯子の付いた2階建てプリテンディングセンターの2階には洋服や帽子、ハンドバック等が

置いてあり、1階は寝室で、人間の形をしたゴム人形が50体ほどベッドに寝かせてある。子どもが「お母さんとお父さんがダンスをしているよ。ほら！キスしてるの」とお父さん人形とお母さん人形をキスさせている。傍に座って見ていた先生が嬉しそうに「そう！2人は愛し合っているのね」「そうよ！」別の子が「これは妹でこれは赤ちゃん」「僕のお父さん青色のシャツ着てるの」「他にはどんな色のシャツを着るの？」先生の声掛けに「うーん、きつと紫も着る」そう言って紫の「お父さん人形」を見つけ出して先生に見せる。

- ・9時半「おはよう」の挨拶に歌とお話のサークルタイムが始まる。12人の子どもは自分の名前が付いた敷物に輪になって座り、その間に2人の先生が座る。内1人が今日のリード役を務める。先生が子どもの名前を呼び、呼ばれた子どもは皆の手拍子の歌に合わせて、好きな振りでダンスを踊る。「お早う！お早う！元気なデッキ。さあ踊って楽しいね」1分間ほど輪の真ん中で楽しそうにふざけて踊るデッキに先生が「お早うデッキ！」と声を掛ける。「お早う！」と返した彼に「ああデッキ！いい挨拶ですね」としっかり褒める。躊躇するアンには「アン踊る？」と聞き「ノー」と答えたアンは踊らず次の子に行く。アンを除いて11人の子が嬉しそうにダンスを踊る。
- ・先生が絵本を読み始める。「イヌがブーブーと鳴いた」「ちがう！ちがう！ワンワン」子ども達が笑いながら口々に言っている。ゆっくりと子どもの声や表情を汲み取りながら、先生は読み進んでいる。
- ・9時45分—おやつの時間になり先生は絵本を読み終わる。「動物が重い病気に罹ったの。どんな動物が病気に罹ったのかな？」「マイクはどんな動物だと思う？」「ゴリラ」とマイクが答えると、先生は次々と同じ質問を全ての子どもにする。おしゃべりをしている子は最後にまわされる。全員が終わると最初に質問したマイクに「マイク、ゴリラが重い病気に罹ったの。どうやって治してあげる？」「えーつと、注射をうつ」「あっそれはいい方法ね。じゃ、おやつに行つてね。」マイクは意気揚々と立ち上がって洗面台で石鹸をつけて手を洗う。横に掛けてある自分のタオルで手を拭き、自分の名札が置かれたテーブルを見つけて座り、おやつを食べ始める。マイクと同様に全ての子どもが先生の質問に答え、手を洗って自分の席を見つけ、おやつを食べ始める。
- ・今日のおやつはクラッカーとバナナ、飲み物はミネラルウォーターである。

2・2・5 幼稚園 1

<施設>

- ・台所横の手洗い場の壁に、子どもの名前が貼り付けてある。その下にそれぞれのタオルが掛けてある。出入り口傍の掲示板には・先生の顔写真・勤務表・昼食メニュー・親へのお頼り袋などが張ってある。少し離れた場所に日課表があり、その横に今日の活動内容が大きなホ

ホワイト・ボードに詳しく書いてある（写真 22 参照）。

- 出入り口傍の円柱に、親に見えるように子どもの作品が張ってある。「お友達と何をして遊ぶのが好きですか？」との先生の問いに子どもが 1 人ずつ答える。先生は子どもが口で言ったことを 1 人ずつ画用紙に書き取り、子どもはその画用紙に先生に話したことの絵を描く。「ぼくはゲーブとあそぶのがすき。ぼくはいいことあそぶのがすき。スターウォーズごっこがすき」（写真 23 参照）。
- 洗面台の戸棚には「週末はどのように過ごしましたか」との質問に対する子どもの話と絵が描かれた画用紙 17 枚が張ってある。
- トイレは教室に 2 箇所あり、上下がたっぷり開いている為、中の様子がよく見える。子どもは自分で自由にトイレに行き、パンツを下ろし、便器の前に置かれた踏み台に乗り、終わると降りて便器のフタを閉め、水を流してパンツを上げる。ほとんどの子が自分でできる。

<観察>

- 7 時半—先生が様々な教材をテーブルに並べる。砂絵（写真 24 参照）や、青色に着色した水が入った 40cm×25cm 透明プラスチック容器 4 個が置いてある。中に人形を乗せたボートが浮かんでいる（写真 22 参照）。色とりどりの細長い棒が、1 人分ずつお盆の上に置いてある。
- 朝 8 時から 9 時迄の間に来たのは 6 人のみ、9 時過ぎてから 10 人の子どもが来る。母親と来る父親と来る半々である。「Hi！ How are you エレーン！」と先生が笑顔で挨拶。どの親もすぐには帰らず、かならずわが子と遊び先生と話をする。立ったまま又は我が子を膝に乗せ、先生と 10 分中には 30 分とゆっくり話す親もいる。2 人の先生が対応し、アシスタントの先生は子どもを見守っている。11 時にもう 1 人の先生が加わり、アシスタントを含め先生は 4 人となる。
- 9 時 10 分—教室に沿って作られた広い園庭で子どもは遊び始める。しばらく教室の中で親と遊んでいた子、先生と話をしている親の子、後から来た子も順序に加わり園庭はにぎやかになる。1 人の先生は大木の傍で木の上のツリーハウスで遊ぶ子どもを見守っている。別の先生は三輪車の通り道に立ち、もう 1 人の先生はジャングルジムで遊んでいる子どもを見守っている（写真 25 参照）。
- 直径 3 m 程の砂場には砂が沢山入っている。子どもがバケツやスコップで遊んでいる。皿やカップ等の食器類も砂の上に置いてある。砂場で見立て遊びが始まる。砂場近くに置かれた台所セットで砂を食べ物に見立てて調理し、傍に置いてあるテーブルに座って食べる（写真 26 参照）。
- 三輪車は子どもの数だけ用意している。2 人乗り、箱付等種類も豊富で、どの子も白線の中を走るルールを守りながら走る（写真 25 参照）。

- 園庭の一角には4m四方ほどのゴム製板が置いてある。そこで子どもはボウリングをしたり体操をしたり寝ころがったりしている。
- 9時25分—チリンチリンとベルの音が鳴る。子どもがドアの傍に並ぶ始める。先生が声を出して「one two three」と子どもの数を数える。1人の子が「funny walk」と叫び、全員「funny walk」（こっけいな、面白い歩き方）で教室にはいる（写真27参照）。
- 9時30分—サークルタイムの時間になる。子どもは自分の名前が書いてある「rug」（敷物）を見つけて座る。席は先生が毎回変えている。カーペット上のラグにあぐらをかくように輪になって座る（写真28参照）。
- 「Simon Says」（サイモンが言う）…先生が‘Simon says’という言葉と共にする動作を子どもがすばやく真似するゲーム…をする。その後1週間の曜日を「雪山賛歌」のメロディーに合わせて手の振りも付けて歌う。歌い終わると先生は「マンデイ マー マー」と唇の形を示して正しい発音を教える。1人の女の子が手を上げている。先生は笑みを浮かべて「有難う！手を上げてくれてエメリー、質問をどうぞ」。
- 「Show-and-tell」（見せてお話）が始まる。前に出て縫いぐるみのタイガーを皆に見せながら話している男の子に質問が殺到する。「ちゃんと最後迄話を聞きましょうね。」「質問は何回しているのかな？」「5回迄、そうだったね」男の子に当ててもらいたいと高く手を上げ、当てられたがうまく質問できない子に「それが貴方の質問なのね」先生が待っている。最後に「タイガーが来るぞー、ガオー、ガオー」と男の子がタイガーを持ち、輪になって座っている全員に見せたり触らせに周る。皆が彼に拍手して終る。翌日の「Show-and-tell」で、男の子が自分のお気に入りの「スパイダーマン・キャリーバッグ」を見せる。バッグの中にスパイダーマン人形等色々な物が入っている（写真29参照）。
- 次に「weather watcher」（お天気確認）が始まる。手で膝を叩きながら全員で「weather watcher」の歌を歌う。途中で今日のお天気係が立ち上がり、ドアの窓から天気を確認し、もどって先生に「sunny」（晴れ）と伝える。
- 「Oh! Gardening, Sam」（庭師の仕事よ、サム）。先生に声掛けられサムは立ち上がる。先生の前に在るジョウロを持ち上げ、鉢植えの植物に水をかける。「今日の植物さんはどんな気持ちかな？」先生はサムの返答を待つ（写真28参照）。
- 壁に先生手作りの大きな4月カレンダーが張ってある。全員で1日から今日の28日迄を大声で読み上げる。今日の日付に来るとカレンダー係りが28日にシールを張る。「今日は4月28日火曜日です」先生が4月を指し次に28を指し、火曜日を指しながら言う（写真28参照）。
- 指人形をはめた先生が、歌いながら指人形の入った籠を子どもに回し始める。子どもも歌いながら籠から好きな指人形を選び指に付け、自分の名前が呼ばれるのを待つ。呼ばれた子は先生の前で「ちょうちょ！飛んでいます」など先生の指人形に話しかける。「良いお友達で

- すね」などと先生も応答する。子どもは指人形を籠に戻しておやつの手洗いに行く。
- 液体石鹸で手を洗った後、すぐ横の壁に下げている自分のタオルで手を拭く。魚や果物の形をしたカードに書かれた自分の名前を見つけ、テーブルに座る。座る席は毎回変わる。
 - 9時45分—おやつはカップに入ったストロベリーヨーグルトにナプキンの上に置かれたクラッカー。好きなだけお変わり自由で食べる。先生は1人ひとりの食べた量を筆記している。食べたくない子は黙って絵本を見ている。食べ終わった子は自分で手洗い場に行き、手を洗い自分のタオルで拭いてコーナー遊びを始める（写真30参照）。
 - 10時—自由遊びが始まる。梯子が付いた2階建てのプリテンディングセンターでエプロンをはめた男子と女子が役割遊びをしている。ダンボール製ゴム製などの大型積み木で遊んでいる子もいる（写真31参照）。1人の子が片付けの鈴を鳴らしたが遊びをやめない子が数人いる。「片付けの時間です。ビル、下の方もよく見てね」先生も一緒に探している。積み木を上手に箱や棚に収めている。「逆だよ」「こうするといいよ」子ども同士教えあっている。離れた場所で1人の女の子が、テーブルの上に用意された細長い棒を真剣に組み立てている（写真32参照）。
 - 10時半—散歩に出る。日焼け止めクリームをぬりロープを握って歩く。先生が前後につき、歌いながら30分程キャンパス内を歩く。帽子を被りたくないと言った子に「お父さんとお母さんが帽子を被ってと言っているから被ろうね」と腰を下ろして促す（写真33参照）。



22 教室風景



23 作品



24 教材



25 園庭遊び



26 砂場遊び



27 並ぶ



28 サークル



29 サークル



30 おやつ



31 積み木遊び



32 自由遊び



33 散歩

2・2・6 幼稚園 2

<施設>

- ・教室の壁面構成は生活環境の一部として、子どもや親に働きかけている。(以下4項目は壁面構成の一部)
- ・毎日のスケジュールを子どもに解り易い用に、字で示すだけでなく、自由遊び・片付け・サークル・手洗い等、時系列に保育中の子どもの姿を16枚のカラー写真で掲示している。
- ・「Parent's Place」には、日常の子どもの様子を先生がデジカメで撮った写真を数多く貼っている。親子で楽しめるよう低い位置に掲示している。
- ・フェルト生地で作成した先生の手作りカレンダーや温度計があり、マジックテープで今日の日付や天気、温度や今日学ぶ字等を貼りつけるようにしている(写真34参照)。
- ・「KID JOBS」には今週の17名全員の仕事を書いてあり、子どもに自分の仕事への責任感を促している(写真35参照)。

<観察>

- ・7時半—先生は子どもが来る前に園庭を箒で丁寧に掃く。三輪車やボウリングなどの遊具を所定の位置に置き、ジャングルジム等の設備の点検をする(写真36参照)。
- ・テーブルの上に遊びのきっかけを作る、様々な材料の準備を行なう。絨毯の上に海賊帽子・金貨・海賊船等、海賊ごっこが楽しく展開するように並べる(写真37,38参照)。
- ・8時—開園と同時に来た女の子が、先生の用意した材料を使って無心に遊ぶ。先生は横に座

り見守る（写真 38 参照）。

- 11 時一サークルの時間になり、17 名全員絨毯の上に輪になって座る。先生が「アンブレラ アッ、アッ、今日は必要な？」と聞きながら黒板に大きく U と書き、左上に UMBRELLA と書く。「アッ、アッ」と何度か発音を教えた後「U で始まる言葉は何か？」子どもを促す。「Under the sea」1 人の子が言う。「そう！今日は under the sea の生き物について学びます」「この生き物は帽子をかぶっています。为什么呢？」手を上げた子が「クラゲ」と答えると「その通りね。じゃこの絵本を見て」クラゲの写真を見せ、クラゲの説明文を読む。タコ、クジラなど 7 つの生き物を同様にした後「海の底で動くものをひとつだけ想像してみよう。さあ想像して！決まったら口で言わないで。皆の前に出て来て動作で教えて。皆であててみよう」指名された女の子が立ち上がる。真ん中に来たとなんうつつ伏せに寝ころがり、平泳ぎのような動作を始める。「亀！」すぐに正解が出た。時計周りに次々に行った後「海はすごく広いから、皆で好きな魚になって泳いでみよう。さあ！『under the sea』の歌に合わせて踊るわよ。皆立って用意はいいかな？」全員が絨毯の上でイルカになったりタコになったり、飛んだり這ったりとものすごい騒がしさで。「あなたはイルカさんね。あなたはフグさんね。」先生も一緒に踊りながら声をかけている。「私クラゲに変身したのよ。」「ステキ！上手に変身したわね」（写真 39. 40 参照）。
- 11 時半一昼食の時間になる。全員輪になって座ったあと、先生から名前を呼ばれた順に、自分の好きな海の生き物に変身したまま手洗いに行く。ニョロニョロとタコやヒトデに変身したり、クラゲ、サメ、鯨やカメに変身したりと、どの子も楽しそうである。
- テーブルに 6 人 6 人 5 人と座り、それぞれに 1 人の先生が座っている。午前 11 時 15 分から午後 12 時半までは 4 人の先生が教えているので、4 人目の先生は食べ物を注いだりお代わりを渡したりしている。この園唯一の男性教師がこのクラスに配属されている。彼はアシスタントであるが、幼児教育の学士号を持っており、他の先生と同様に保育を行っている（写真 41 参照）。
- 昼食メニューは、バーベキューチキン・マッシュポテト・コーン・フランスパン・メロン・牛乳でいずれもお代わり自由である。著者も子どもと一緒に食べ、料理は薄味で家庭の味の美味しい食事である事を確認した。マッシュポテトには、赤ジャガイモの赤い皮が多量に入っており、メロンは皮が付いたままである。メニューは毎日変わり、1 ヶ月の献立表が各クラスに貼ってある。かならず果物に脂肪 2%オーガニック牛乳、肉か魚、パンかライス、野菜が付く。別の日の献立は、ミートローフ・カリフラワー・ロール・ぶどう・牛乳、又別の日は、ほうれん草と肉のパイ包み・ブラウンライス・チェリートマト・梨・牛乳であった（写真 42 参照）。
- 料理は大皿に盛ってある。子どもは大皿が回って来ると自分のステンレス製フォークで、食

べたいだけ自分の皿に取り、隣の人に回す。先生は「大皿は真ん中に置きましょうね」「一個だけ取って次の人に回しましょうね」などと声を掛ける。子どもが楽しむ物話を、子どもが食べている間中話している先生もいる。一緒に食べる先生、食べない先生色々である。いずれのテーブルの先生も、かならずそれぞれの子どもが何をどれ位食べたか記録する。迎えに来た親に知らせる為である。

- 食べ終わった子から順に、残った食べ物を自分で残り物入れに捨て、皿は水の入った洗い桶の中に入れ、フォークはフォーク入れに入れ、こぼした物は自分で拭いている。立ち上がった時、椅子をキッチンと直していない子に、先生は椅子を直すことを促す。園では残さず食べることを励ますが、けして強制はしない。
- すぐに歯を磨き始める。磨き粉がすでに付いている全員の歯ブラシが並べて置いてある。「奥まで磨こうね。指でこういう風に口を空けて」先生が腰をかがめて指導する。口をすすぎ、歯ブラシを歯ブラシ立てに戻し、自分のタオルで手を拭く。輪になって置いてある自分の名前のラグに次々と座る（写真 43 参照）。
- 12 時一手遊びの後、今日の仕事係 2 人が呼ばれる。鉢植え運びと昼食の料理の残りを台所に運ぶ仕事である。2 人は誇らしげに仕事をしている。
- 12 時 20 分一設定保育が始まる。全員好きな場所に輪になって座る。先生は「See & Solve Manipulative Kit」（見ながら解く一操作する教材）の箱をあけ、教材を素早く立ち上げる。1 人の子に 2 枚のカードを抜き取らせる。7 と 4 の数字が書いてあるカードを抜き取ったその子は、2 枚をカード立てに並べる。数字の間に先生がプラスのカードを立て、端にイコールを立てて「答えは何だろう？」「じゃ seven は何色にしようか？」子どもたちに言わせて、セブンの色の玉 7 個を子どもに数えさせながらカードの前に置く。「four は何色がいい？青ね。じゃ皆で数えよう」4 個の玉が 4 のカードの前に置かれる。「イコールの隣のここは何個になるかな？皆で数えてみようね。」全員が 7 のカードの前の玉を一つずつ「one two three」と数える。終わると次に 4 のカードの前の玉を「eight nine ten eleven」と声を出して数える。「eleven あったね。じゃあこの eleven の玉はイコールの隣に置きましょう。さてこの eleven はどうやって作るのかな？」「one and one」子どもが答えると「その通りね。eleven はこんな風を書くのよね」そう言いながら先生は 11 のカードをイコールの隣に立てる。「さあ皆で言いましょう。Seven and four make eleven。」子どもは集中している。子どもの興味を確信した先生は、「これで遊びたい時はいつでも言ってね。先生すぐに立ち上げてあげるから。」
- 先生が昨日の本の続き、第 37 章を読み始める。感情を込めジェスチャーをまじえて読む。子どもは寝そべったり、肘を立て手を頬に当てたり、リラックスして聞いている。時々手を上げて質問をしている子もいる。

- ・13時一昼寝の前のお話は大きなクッションが置いてある奥まった部屋で、クッションに寝そべて聞く（写真44参照）。その間に先生が衝立を立て、簡易ベッドをベッド配置表の通りに置く。子どものお気に入りの縫いぐるみや毛布などが整然とベッドに配置される（写真45参照）。



34 壁面構成



35 壁面構成



36 園庭準備



37 海賊教材



38 朝の教室



39 サークル



40 サークル



41 昼食



42 昼食



43 歯ブラシが並ぶ洗面台



44 奥まった部屋



45 昼寝ベッド

3. 終わりに—所感—

土曜日の午前中に散歩中、園庭でおしゃべりをしながら楽しそうに、三輪車通路の白線を引いている5～6人の父親が目に入った。休日にも拘わらず手伝う親の姿勢に温かいものを感じ、観察した園の様子を思いだした。園では親に「貴方の特技や趣味或いは仕事について、又は国の文化等についてここで子どもに伝えて欲しい。サークル等園の保育に参加して欲しい」と、親が積極的に保育に参加することを奨励している。いつでも「自由に保育を見学して下さい」と見学を促している。この園では常に親を迎える準備が出来ているのである。言い換えれば先生には余裕があるということだと思う。確かにここでは忙しそうにしている先生は見当たらない。どの先生もゆったりとして、子どもへの笑顔や声掛けが多い。日本の先生のように、休憩が取れずトイレに行くことも、子どもが昼寝をする迄我慢しなければならないなどということはないのである。これに対し日本は保育者の数が余りにも少なすぎるのではないだろうか。日本とアメリカとは保育制度が違うので、一様に比較は出来ない部分もあるが、今回の観察を日本の保育所と比べてみたい。日本の保育士配置基準は、3歳児30：1であったが、昭和43年現在の20：1に変更され、以来40年以上現在迄見直されていない。4歳5歳児については、昭和23年から60年以上全く見直されることもなく30：1のままである。幼稚園教諭の配置は、年齢区分に関係なく35：1である。保育室の面積は、1人につき1.98平方メートル以上、これは子ども1人約1畳分の広さで、これも昭和23年からまったく見直されていない。つまり日本の保育の現状は、30人という多くの子どもの保育が、1人の保育士により、子ども1人1畳分の広さの保育室で行われている。この様な保育が60年以上見直されることもなく行なわれているのである。保育は環境を通して行うものなので、人的環境、物的環境が相互に関連し合うことで、子どもの生活が豊かなものとなるよう、計画的に環境を構成・工夫しなければならないはずである。

又、憂慮すべきは、改定保育所保育指針では保育所の役割として、入所する子どもの保育、その保護者に対する支援、地域の子育て家庭への支援の3つが示された点である。今迄は入所する子どもの保育が保育士の責務であったが、保育士に更なる役割を課し、それらを果たすよう求めているのである。又今回の改定では、保育の質の向上を目指して、保育士に更なる専門性の向上を求めているが、保育に余裕がなく十分な研修を受ける時間も儘ならぬ保育士に、保育の質の向上、専門性の向上を期待できるであろうか。今一度「幼児期における教育は環境を通して行うものであることを基本とする」という文言を思い出すべきである。

園では学期半ばの一月、親へアンケート調査を行っている。5枚綴りの自由書き込み欄を設けた詳しいもので、教室環境についての質問に続き、「先生は暖かい眼差ししているか、発達を

見据えて保育を行っているか」など、先生について又遊びや活動内容について、更には園の運営費にまで及んでいる。中には「貴方が払う保育料は貴方が受け取るものに見合っていますか」との質問があり、このことについてコメントを書くようにもなっている。記入者の名前は書いても書かなくてもよい。日本でも保育士及び保育所の自己評価体制を構築することが求められているが、この園では既に毎年この調査を行い、親の反応・意見・感想をしっかりと生かした運営を心掛けているのである。

謝辞

観察を気持ちよく受け入れて下さり、またお忙しい中、色々な資料を用意し質問にも答えて下さったセンター長の Ms. Vaughan Cate に厚く御礼申し上げます。又著者を各クラスに案内し、先生方に紹介して下さった副センター長の Ms. Melissa Chieppo と、子どもと対応しながら自由に観察することを快く承知して下さった各クラスの先生方に、心より感謝致します。

Acknowledgment

I am grateful to Ms. Vaughan Cate, Director, for permitting me to carry out an observation, furnishing material and responding to my questions despite her busyness. I am also grateful to Ms. Melissa Chieppo, assistant director, for showing me around classrooms and introducing me to teachers. Finally I wish to thank every teacher for letting me watch children closely and freely in their classrooms.